

# 第61期 中間株主通信

2018年2月1日～2018年7月31日



京王あそびの森 HUGHUG (ハグハグ)

株主の皆様におかれましては、日ごろより格別のご厚情を賜り、厚く御礼申し上げます。



代表取締役社長 高橋 貴志

## ■上半期を振り返って

当第2四半期連結累計期間(2018年2月1日～2018年7月31日)における我が国経済は、企業収益や雇用環境の改善効果もあり、緩やかな回復基調が継続しました。

当ディスプレイ業界の事業環境につきましても、公共投資が底堅く推移し、企業の設備投資にも持ち直しの動きがみられる等、引き続き堅調に推移しました。

このような状況のもと当グループは、新たに策定した中期経営計画(2019年1月期～2021年1月期)に基づき、市場の活性化が見込まれる新中期経営計画期間中の需要増加を確実に取り込むとともに、継続的な成長と更なる企業価値の向上を目標に事業活動を展開してまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は409億46百万円(前年同四半期比1.8%増)となり、営業利益は28億51百万円(前年同四半期比2.0%減)、経常利益は29億15百万円(前年同四半期比1.6%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益は19億45百万円(前年同四半期比2.0%減)となりました。

なお、当第2四半期連結累計期間の受注高は378億85百万円(前年同四半期比2.6%減)となりました。

## ■通期の見通し

今後の見通しにつきましては、雇用および所得環境の改善が続くなかで、各種政策の効果もあり、緩やかな景気回復が期待されます。

当グループを取り巻く環境につきましても、人手不足に伴う外注コ

ストの増加等が懸念されるものの、東京オリンピック・パラリンピック開催に向けた諸施設の整備や都市再開発案件の増加、観光立国を目指した需要の増加等、明るさも見られ、引き続き改善が期待されます。

なお、2019年1月期の業績予想につきましては、売上高790億円、営業利益は47億円、経常利益は48億円、親会社株主に帰属する当期純利益は32億30百万円となっております。

## ■中期経営計画(2019年1月期～2021年1月期) (百万円)

売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	ROE(%)
2019年1月期計画				
79,000	4,700	4,800	3,230	12.3
2020年1月期計画				
84,000	5,400	5,500	3,750	13.4
2021年1月期計画				
87,500	6,100	6,200	4,200	14.0

## ■配当金について

当期の中間配当金は、1株当たり17円とさせていただきます。また、期末配当金は、1株当たり17円を予定しており、年間配当金は、1株当たり34円となる見込みです。

株主の皆様におかれましては、今後とも、より一層のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2018年10月

## 商業その他施設事業

連結売上高 **238億13**百万円(前年同四半期比 2.2%増)

連結営業利益 **13億10**百万円(前年同四半期比 14.5%減)

商業その他施設事業においては、市場環境は引き続き良好であり、特にサービス分野(空港関連施設、ホテル、オフィス、テーマパーク等)の新改装案件が堅調に推移したこと等から、売上高は前年同四半期を上回ったものの、収益性については前年同四半期に及ばず、営業利益は前年同四半期を下回りました。



大阪国際空港(伊丹空港)

## チェーンストア事業

連結売上高 **97億81**百万円(前年同四半期比 11.5%減)

連結営業利益 **6億35**百万円(前年同四半期比 24.7%減)

チェーンストア事業においては、アパレル分野、飲食店分野ともに、第3四半期以降に繰り越す大型案件が多いため、売上高、営業利益ともに前年同四半期を下回りました。



LAKOLE イオンレイクタウン

## 文化施設事業

連結売上高 **70億36**百万円(前年同四半期比 26.4%増)

連結営業利益 **7億71**百万円(前年同四半期比 82.0%増)

文化施設事業においては、前年同四半期と比較して、大型案件の数が多かったこと等から、売上高、営業利益ともに前年同四半期を上回りました。



札幌市下水道科学館

## その他

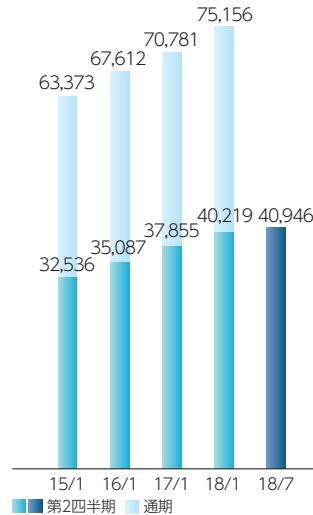
連結売上高 **3億13**百万円(前年同四半期比 6.4%増)

連結営業利益 **1億29**百万円(前年同四半期比 30.1%増)

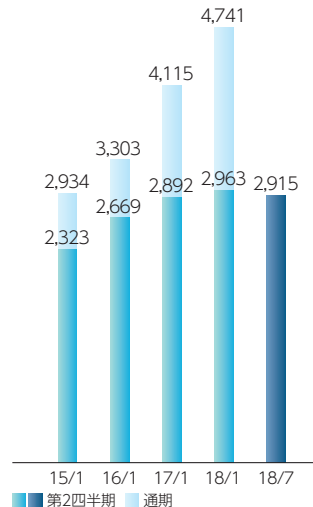
その他においては、ディスプレイ業以外の商業施設の運営管理、事務サービス等が堅調に推移し、売上高、営業利益ともに前年同四半期を上回りました。

## 連結財務ハイライト

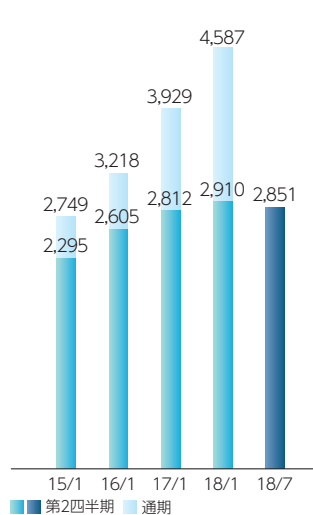
売上高 (単位:百万円)



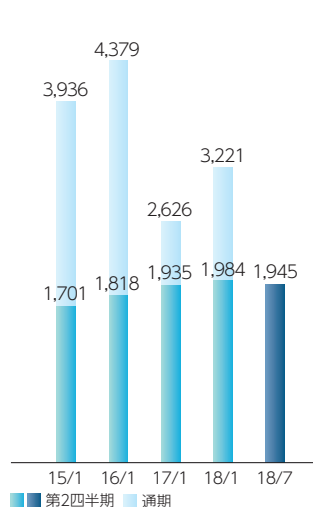
経常利益 (単位:百万円)



営業利益 (単位:百万円)



親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益 (単位:百万円)



(注1) 2015年1月期は税負担が少なかったため、親会社株主に帰属する当期純利益が高く計上されております。  
 (注2) 2016年1月期については、日本社の土地の売却等により特別利益を計上し、親会社株主に帰属する当期純利益が高く計上されております。

## 連結財務諸表

### 連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

科目	前期末	当第2四半期末
	2018年1月31日現在	2018年7月31日現在
流動資産	35,203	38,399
固定資産	8,765	9,031
流動負債	16,901	19,533
固定負債	1,556	1,553
純資産	25,510	26,343
総資産	43,968	47,431

### 連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	前第2四半期	当第2四半期
	自2017年2月1日 至2017年7月31日	自2018年2月1日 至2018年7月31日
売上高	40,219	40,946
売上原価	33,162	33,723
売上総利益	7,057	7,223
営業利益	2,910	2,851
経常利益	2,963	2,915
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,984	1,945

### 連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

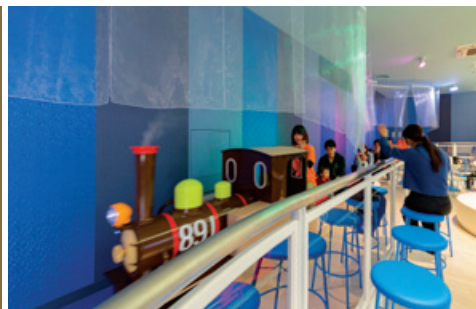
科目	前第2四半期	当第2四半期
	自2017年2月1日 至2017年7月31日	自2018年2月1日 至2018年7月31日
営業活動による キャッシュ・フロー	988	2,670
投資活動による キャッシュ・フロー	△427	△326
財務活動による キャッシュ・フロー	△652	△1,522
現金及び現金同等物の 四半期末残高	16,109	15,190

詳細な財務情報は、当社ウェブサイトIR情報をご覧ください。

アドレスはこちら▼

<https://www.tanseisha.co.jp/ir/>

# 子どもたちを育み、ハグする「京王あそびの森 HUGHUG 〈ハグハグ〉」



## 成功を支えた信頼関係と若手スタッフの奮闘

プロジェクト終了時、京王電鉄(株)様からは「ドリームプランのような一枚のスケッチから生まれたコンセプトを、きちんとデザインに落とし込んで高いクオリティで具現化してくれた」と当社の仕事に対して



高い評価をいただきました。「子どもに優しい京王沿線」を目指す京王電鉄(株)様にとって、子どもたちがのびのびと遊び、学べるこの施設は沿線における豊かな子育て環境の象徴にもなっています。

建物工事と同時進行であったこともあり、細かい日程調整等も必要でしたが、大きな問題もなく無事に仕事を完遂できたのは、最初の段階で、当施設に対するわかりやすいテーマ性の構築とその共有ができたからに他なりません。このベースの部分で京王電鉄(株)様としっかり共有できていたからこそ、その後の工程の中で直面した諸問題も、スムーズに解決していくことができました。結果、京王電鉄(株)様には、ビジネスパートナーとしてご認識いただき、同社からその後も継続してプロジェクトのご相談・お引合をいただいています。

そして本プロジェクトのもう1つの大きな収穫として挙げられるのが、若手社員の成長です。本プロジェクトを担った当社の主要スタッフは別の子ども向け施設で10年来チームを組んできた中堅社員でしたが、入社1年から数年程度の若手社員にも責任ある仕事を任せ、苦勞しながらも彼らはしっかりと各自の務めを果たしてくれました。こうした若い人材の活躍と成長が、今後、事業活動を展開する上での財産になったと考えています。

## 木の温もりに触れる自由な遊びと学びの空間

京王動物園線「多摩動物公園」駅前に2018年3月にオープンした「京王あそびの森 ハグハグ」は、「木育・体育・知育」をコンセプトに、木の温もりに触れながら遊び、学べる全天候型屋内遊戯施設です。もともと駐車場だった所有地の有効活用策として京王電鉄(株)様が開設したこの遊戯施設には、シンボルツリーとなる日本最大級のネット遊具「ハグハグのき」や、屋内ミニSL「ハグハグトレイン」といったユニークなコンテンツが充実し、対象年齢0歳から12歳の子どもたちに、自由で創造的な遊びの機会を提供しています。



多摩の山麓に広がる森をイメージした館内の内装や一部の遊具、おもちゃには地産地消の取り組みとして地元・多摩産材が使用され、プレイゾーンのほかにカフェやグッズショップなども併設。この施設の誕生によって隣接する多摩動物公園や京王れーるランドとの3施設間で回遊性が生まれ、エリアとしての魅力をさらに高めています。

## 施設と運営の両面から「リスク」と「ハザード」に対応

幼い子どもたちが対象となる施設ということで、まず徹底的に考え抜いたのが「どんな遊びを、どれだけ遊んでもらうか」という遊びや安全に関する基準でした。特に安全性に関しては、「リスク(確率的な危険度)」と「ハザード(危険の原因)」という観点から、楽しさや自由度と安全のバランスなどについて検討を重ね、危険性に対して施工時の設備・デザイン面から当社が対策すること、稼働後の運営管理面から京王電鉄(株)様が対処することに仕分けして、具体化のプロセスを共同で進めていきました。当社はキッズミュージアムなどの子ども向け施設のデザイン・施工と運営の実績もあり、そこで積み重ねた知見やノウハウも最大限活用しています。

安全性に関して特に配慮したのが、走り回る子どもたちを想定した館内の動線です。子どもたちがぶつかったりしないか、保護者の方の目がしっかり行き届くか、といったポイントを押さえつつ、デザインと関連づけながら違和感なく空間を作り上げていくことに注力しました。その結果、子どもたちが行動を制限されることなく、自然と回遊しながら、自由かつ創造的にのびのびと遊び回れる空間を創造できたと思います。

## 賞受賞 「第12回キッズデザイン賞」受賞

### プロジェクトに携わったメンバー



(手前から)

制作	林 由衣子
設計	和田 栞
営業	石橋遼太郎
制作	加藤 圭
制作	片倉 基也
設計	山本 啓介

### 空間演出技術の研究開発・実証拠点「港南ラボ マークスリー[Mk\_3]」を新設しました

当社は、先端コンテンツを応用した空間演出技術の研究開発および実験、実証のための拠点「港南ラボ マークスリー[Mk\_3]」を新設しました。



独自の高速ブラウジングシステム等を備え、創造性を高めて利用者の共創を促す空間。新たなデザインや技術の実験と実証を重ねて、アイデアをリアルな空間で具現化します。

本拠点は、空間とテクノロジーの連携による新たな価値創出を目的とした会員制の共創の場です。当社「クロスメディア インキュベーションセンター」をはじめ、ICT、インタラクティブ技術、映像・音響技術などの先端的な技術・コンテンツをもつ企業やクリエイターと、研究・実証・協働を進めます。エンドユーザーおよび事業者により新しく、質の高い体験を得られる空間を提供してまいります。

### 「静岡県富士山世界遺産センター」が、多数のデザイン賞を受賞しました

当社が空間づくりをお手伝いしました「静岡県富士山世界遺産センター」が、「JCDデザインアワード2018」(※1)において大賞を、「IDSA日本空間デザイン賞2018」(※2)および「第52回日本サインデザイン賞」(※3)において金賞を受賞しました。

本施設は、2013年に世界文化遺産に登録された富士山の価値を保護し、広く伝えるためにつくられました。富士山の景観の大パノラマ映像を眺めながら富士登山を疑似体験し、歴史・文化・自然など、富士山の持つ様々な側面や価値を理解できる展示構成としました。



建築設計者坂茂氏による「逆さ富士」の建物。内部は展示スペースとなっています。(撮影：平井広行)

今後とも、空間をご利用になる皆さまの視点を忘れず、お客さまの事業への貢献ができるよう、豊かな空間づくりに取り組んでまいります。

**【主催】**

- ※1:一般社団法人日本商環境デザイン協会
- ※2:一般社団法人日本空間デザイン協会
- ※3:公益社団法人日本サインデザイン協会

### ウェブサイトのご案内

当社のウェブサイトでは株主・投資家の皆様に対して、企業情報や財務情報をはじめとして、積極的に情報開示を行っております。当社をよりご理解いただくためにも、ぜひご利用ください。



<https://www.tanseisha.co.jp>

### 会社概要 (2018年7月31日現在)

商号 株式会社丹青社  
 設立 1959年12月25日  
 資本金 40億2,675万657円  
 従業員数 979人(連結:1,241人)

### 役員 (2018年7月31日現在)

代表取締役会長 青田 嘉光  
 代表取締役社長 高橋 貴志  
 取締役常務 徳増 照彦  
 取締役常務 戸高 久幸  
 取締役 中島 実  
 取締役 小林 統  
 取締役 篠原 幾徳  
 取締役 森永 倫夫

取締役 常勤監査等委員 河原 秀司  
 社外取締役 監査等委員 松崎也寸志  
 社外取締役 監査等委員 長谷川 明  
 社外取締役 監査等委員 新島由未子

### 株式の状況 (2018年7月31日現在)

株式の総数  
 発行可能株式総数 187,200,000株  
 発行済株式総数 48,424,071株  
 株主数 6,217名  
 大株主

株主名	持株数	持株比率
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	5,077千株	10.48%
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	2,982	6.15
丹青社取引先持株会	2,379	4.91
第一生命保険株式会社	1,907	3.93
ファンネックス・アセット・マネジメント株式会社	1,710	3.53
株式会社三井住友銀行	1,500	3.09
株式会社三菱UFJ銀行	1,482	3.06
日本生命保険相互会社	1,446	2.98
丹青社従業員持株会	1,142	2.35
資産管理サービス信託銀行株式会社(証券投資信託口)	923	1.90

### 株主メモ

事業年度 2月1日から翌年1月31日まで  
 配当金受領株主確定日 期末配当1月31日/中間配当7月31日  
 定時株主総会 毎年4月  
 株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号  
 特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社  
 同連絡先 東京都府中市日鋼町1-1  
 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部  
 Tel.0120-232-711(通話料無料)  
 同郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号  
 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部  
 上場金融商品取引所 東京証券取引所 市場第一部  
 公告の方法 電子公告により行う  
 公告掲載URL <https://www.tanseisha.co.jp/>  
 (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載いたします。)

### 株主の皆様の声をお聞かせください

下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。

<https://www.e-kabunushi.com/>  
 アクセスコード 9743

いいかぶ

●アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2か月間です。

ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝(図書カード500円)を進呈させていただきます

※本アンケートは、株式会社 a2media(エー・ツー・メディア)の提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。  
 ※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます、事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

●アンケートのお問い合わせ TEL:03-6779-9487(平日 10:00~17:30)  
 「e-株主リサーチ事務局」 MAIL:info@e-kabunushi.com

撮影:御園生大地、クドウオリジナルフォト、ツキジD&R

ここを動かす空間をつくりあげるために。

## 株式会社 丹青社

〒108-8220 東京都港区港南一丁目2番70号  
 Tel. 03(6455)8100(代表)  
 Fax. 03(6455)8220(代表)

